

第14章 日本ブライダル文化振興協会¹

第1節 協会の概要

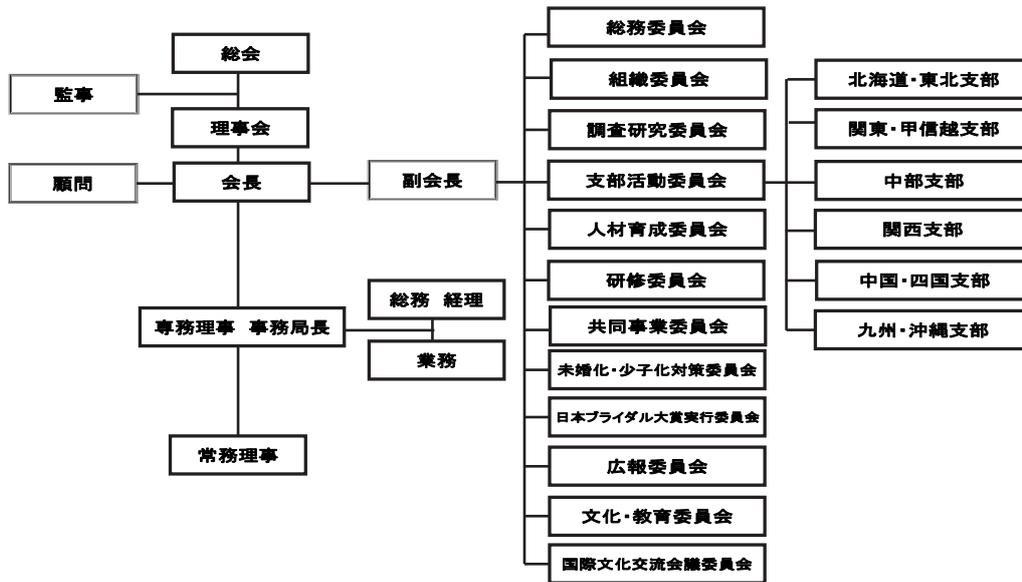
公益社団法人日本ブライダル文化振興協会（以下「協会」と記載）は1995年に設立された。1993年から、現在の専務理事とブライダル関連事業に携わる企業の関係者が、ブライダル業界の業界団体設立に向けた準備を進め、1994年に任意団体日本ブライダル産業振興協会を設立、1995年に通商産業大臣の許可を得て、特例民法法人社団法人日本ブライダル事業振興協会として発足した。その後、公益法人改革を受け、2012年に公益社団法人に移行し、現在の団体名に改称されている。協会員は、結婚式場業を営む企業、結婚式を行うホテル、結婚式に携わるメイク、衣装、装花、写真などの事業者、結婚式に携わる人材を養成する専門学校などである。1995年の日本ブライダル産業振興協会発足時は加盟企業数300、加盟企業の運営する式場数も約300であった。2016年12月時点の加盟企業は約500社である。

主な事業は、ブライダルに関わる、①調査研究、②情報の収集及び提供、③人材育成、④研修・セミナー、各種イベントの開催、⑤内外関係機関との交流・協力である。これら事業を推進するため、協会内には、総務、組織、調査研究、支部活動、人材育成、研修、共同事業、未婚化・少子化対策、日本ブライダル大賞実行、広報、文化・教育、国際文化交流会議、の12の委員会が設けられている（**図表14-1**）。

各委員会の主な役割・担当業務は**図表14-2**に示したとおりである。また、1996年から各地域の支部を設置しており、現在は6つの地域支部が設けられている。事務局は、2016年12月時点で5人のスタッフが担当している。

¹ 本稿は2016年12月21日に日本ブライダル文化振興協会において実施したインタビュー調査の内容と、その際に収集した諸資料に基づき作成しており、記述内容は特に断りのない限り、インタビュー調査実施時点の状況に沿ったものである。

図表 1 4 - 1 日本ブライダル文化協会 組織図



資料出所：協会 HP。

図表 1 4 - 2 協会各委員会の主な役割・担当業務

委員会名	主な役割・担当業務
総務委員会	協会活動の基本方針の策定。内部規定等の作成、協会の事業にかかる重要課題を審議し、理事会総会に上程する。
組織委員会	総務委員会をはじめ、各委員会との連携交流を密にして、ブライダル業界全体に対して協会への認識を高めるべく、啓蒙活動を行う。協会の活動を円滑にするための基盤である会員の拡大を図る。
支部委員会	地方で継承されてきた婚礼文化及び地域の習俗、婚礼市場の変化等、情報の収集を行い、地域の環境に即した研修会・イベント等を開催する。地域会員の拡大を図る。
調査研究委員会	業界の意識調査、企業が単独で取り組むことが困難な分野での調査研究及びデータの収集などを行う。
人材育成委員会	業界の実情を考慮して、ブライダルマネージャー養成講座、ブライダルコーディネーター養成講座、検定などの事業の他、教科書・参考資料等の編纂、公的資格制度の研究等を行う。
研修委員会	個人情報保護法、下請け契約法等、ブライダル事業に直接関わる法律の施行等に係る普及活動、研修会・勉強会等を実施する。
共同事業委員会	消費者に結婚の意義を伝えるための共同キャンペーン事業、将来顧客開発のための結婚喚起に係るイベント・セミナー等の企画・開催等を担当する。
未婚化・少子化対策委員会	ブライダル事業を背景とした少子化未婚化対策の研究、政府行政への提言及び協力、縮小傾向のブライダルマーケットに歯止めをかけるための未婚化対策の研究及びキャンペーン活動を行う。
日本ブライダル大賞実行委員会	国民への結婚喚起を目的としたイベント企画、ブライダル大賞の開催企画・運営、カリスマ性のあるブライダル・コーディネーターを発掘し、「The Master of Bridal Coordinator」として表彰する事業を担当する。
広報委員会	インターネットによる会員相互の情報交流システムの構築、インターネット騒動相談窓口などの開発推進を図る。
国際文化交流委員会	各国ブライダル関連団体との提携・交流や、海外への視察団派遣など、積極的な国際情報交流を行う。
教育文化委員会	専門学校・大学との情報交流を密にし、業界への教育の効果認識を語り、実践の強みを表すため、学校教育・資格教育に力点を置いて活動する。

資料出所：日本ブライダル文化振興協会第5回総会(2016年6月)資料。

第2節 協会が実施する資格認定・検定制度

1. ブライダル・コーディネーター資格

ブライダル・コーディネーター資格は、8月に実施される1週間前後の「ブライダル・コーディネーター養成講座」をすべて受講し、修了した人に与えられる資格である。協会ではブライダル・コーディネーターを「所属する企業を代表し、お客様の目線でご相談を受け、ご満足頂くサービスを提供するために分業の壁を超えて、ウェディングプロデューサー、プランナーを的確に指揮・指導するなど、他業種パートナーとのコミュニケーションを図り、多様化するユーザーに対処できるエキスパート」と定義し、養成講座を「お客様と企業の双方に信頼され、モチベーションが上がる組織のエース作り」を目指すものと位置づけている。こうした講座の位置づけから、受講者にはブライダル関連企業で働く中堅層、幹部候補生、経営陣の後継者などが多い。

前身の事業は協会発足前の1990年から行っており、1990年は大阪で、1991年からは東京と大阪で開催していた。「ブライダル・コーディネーター養成講座」と正式に銘打って講座を実施するようになったのは、1995年からである。最近3年間は東京でのみ実施している。

講座の受講要件は特に定めておらず、非会員企業の関係者や企業に属していない人でも受講することができる。毎年受講者における会員企業関係者の比率は約7割で、3割ほどは会員企業と関係を持たない人で占められている。受講料は会員企業・団体に所属する受講者が150,000円、非会員企業に所属する受講者が210,000円である(2016年)。

最終日を除くそれぞれの日の講座は朝から夕方にかけて行われ、午前は講義、午後はグループワークやロールプレイングというカリキュラムになっている(図表14-3)。講義で取り上げる内容は、協会の人材育成委員会において業界の現在の課題や問題点を検討し、学識経験者や専門家などの情報に加えて、これまでの受講者全員を対象に実施しているアンケート調査の講師評価や要望を取り入れて策定している。協会が発足した1995年に、中小企業団体中央会の支援を受けて実施した「人材育成カリキュラム作成のための調査研究」において、ブライダル業界で求められる人材像について把握し、この人材像に基づいて決めていったカリキュラムの内容が、現在も講座を企画していく際の拠りどころとなっている。

また講座では、受講者間の交流を重視している。グループワークに加え、昼食会の時間などを設定して、講座期間中の活発な交流を図っている他、講座終了後の修了者のOB・OG会や勉強会も協会では研修活動の一環として捉え、積極的に支援している。

図表 1 4-3 ブライダル・コーディネーター養成講座のカリキュラム (2016年)

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
8:30 Wedding Now 受付	8:30 勝利の手法 受付	8:30 婚礼のプロ・現場力 受付	8:30 婚礼のプロ・知識力 受付	8:30 勝利のマーケティング 受付	8:30 最後は人 受付	7日目 修了式
9:00 心ビジネスと人材育成	9:00 心理学	9:00 「カスタマーズ・リレーション」 ホテルのCRM	9:00 キリスト教と婚礼	9:00 こうすれば売り上げが上がる「成功事例」 勝てるホテル婚礼の組織とは	9:00 職場を楽しくする ヒューマンヘルスケア	
10:40 日本人の心と婚姻	10:40 ブライダルにおける ホスピタリティ	10:40 世界の ウェディングセレモニー	10:40 ブライダルの計数管理	10:40 デジタルマーケティング の変化とトレンド	10:40 日本文化としての和装	
12:10 昼食休憩	12:10 昼食休憩	12:10 昼食休憩	12:10 昼食休憩	12:10 昼食休憩	12:10 昼食休憩	12:00 受付・施設見学
13:10 営業戦線の意識改革	13:10 施設見学会	13:10 プロ中のプロになる 成功事例・婚礼戦略の現場 力	13:10 神前式	13:10 施設見学会	13:10 ブライダルに関する法 律 クレームトラブル	13:00 美容
14:50 我が国の ブライダル市場	13:50 こうすれば売り上げが上がる「成功事例」 【接客・成約力・指導力】 リーダーシップはどう育てるか いかに顧客の心をつかむか	14:50 婚礼のプロとは何か	14:50 婚礼衣装	13:50 脱類似化社会の 営業戦略	14:40 グループワーク 発表	14:40 修了式
	15:30 こうすれば売り上げが上がる「成功事例」 【企画提案力】 ホテル・専門会場立で どのようなブライディングをもつか	15:30 グループワーク 講師コメント	16:30 婚礼料理	16:30 グループワーク 講師コメント	16:40 修了試験	15:40 修了パーティー
18:00 コミュニケーション ワー	17:00 プランニングの手法と 自己流儀の創造	18:00 インテリジェンスアワー				

資料出所：協会HP。

近年は、販売力の強化とマネジメントに関する講座に注力をしている。一連の講座を1回実施するのに20数人の講師が必要となるため、講師選びには苦勞しているが、協会事務局で選抜した人材に、人材育成委員会の了承を得た上で依頼している。委員会は年4回開催しており、講座実施前に3回、実施後に1回行う。

最終日には、各講座の講師が作成した試験問題(1講師あたり2問作成、計50問)と小論文からなる修了試験が行われる。前身となる事業から2015年前の累積修了者は約3,700人(図表14-4)で、事業開始当初に受講していた人の中には加盟企業の社長になっている人もいる。

図表14-4 ブライダル・コーディネーター養成講座の受講者数

開催年	合計	東京会場	大阪会場
1989～2001年	1918	884	1034
2002年	210	123	87
2003年	194	118	76
2004年	187	126	61
2005年	168	101	67
2006年	161	101	60
2007年	144	84	60
2008年	135	87	48
2009年	108	68	40
2010年	75	75	—
2011年	79	79	—
2012年	119	77	42
2013年	63	63	—
2014年	67	67	—
2015年	94	94	—
合計	3722	2147	1575

資料出所：日本ブライダル文化振興協会第5回総会(2016年6月)資料。

2. アシスタント・ブライダル・コーディネーター検定

アシスタント・ブライダル・コーディネーター検定(以下「ABC検定」と記載)は、2000年から実施されている検定試験で、ブライダルに関する専門学校の学生を主な対象としたものである。学生の受験者数は、ここ数年毎年3,500人程度であり、8割前後が合格している(図表14-5)。また加盟企業内における人材育成の一環としても活用されており、年に数社程度が自社の従業員に試験を受けさせている。累計の検定取得者は約32,000人である。

図表 1 4 - 5 ABC検定の受験者・合格者数

①専門学校における受験者・合格者

実施年	受験校数	受験者数	合格者数	合格率(%)
2000年	5	143	99	69.2
2001年	21	406	337	80.4
2002年	34	641	537	80.2
2003年	47	1119	871	73.0
2004年	61	1751	1503	82.5
2005年	72	2047	1660	79.8
2006年	91	2500	2098	81.3
2007年	105	2886	2391	81.4
2008年	110	3152	2771	83.7
2009年	120	3229	2827	84.3
2010年	130	3216	2837	84.2
2011年	137	3233	2585	78.5
2012年	142	3144	2745	81.2
2013年	133	3254	2836	81.5
2014年	134	3371	2948	80.9
2015年	136	3686	2896	76.8

②加盟企業における受験者・合格者

実施年	受験企業数	受験者数	合格者数	合格率(%)
2000年	1	19	19	100.0
2001年	1	1	1	100.0
2002年	2	9	9	100.0
2003年	4	60	54	90.0
2004年	4	35	34	97.1
2005年	5	50	40	80.0
2006年	5	31	25	80.6
2007年	14	226	189	83.6
2008年	2	25	6	24.0
2009年	3	24	17	70.8
2010年	3	38	27	71.1
2011年	3	18	12	66.7
2012年	7	38	34	89.5
2013年	3	12	11	91.7
2014年	4	26	17	65.4
2015年	3	18	8	44.4

資料出所：日本ブライダル文化振興協会第5回総会(2016年6月)資料。

ABC検定向けには協会で作成しており、協会に加盟する150ほどの専門学校が講義でこのテキストを用いている(図表14-6)。テキストは、専門学校で習ったことのうち、必ず押さえておいてほしいことをまとめたという位置づけであり、試験も専門学校生に復習の機会を提供するという目的を持ちながら実施している。

試験は 60 分・マークシート方式で、テキストに掲載されていないことや時事問題も出題される。ABC 検定の試験問題については、上述の人材育成委員会とは別に、専門学校の講師などをメンバーとした作問委員会を設けて作成している。

図表 1 4 - 6 ABC検定テキストの内容

Lesson1 結婚とは	Lesson5 打合せ業務
第1章 結婚の定義	第1章 成約時から初回打合せまで
第2章 日本の結婚式: 歴史と文化	第2章 初回打合せ(第1回目)
第3章 欧米の結婚式: 歴史と文化	第3章 中間打合せ(第2回目)~最終打合せまで
Lesson2 ブライダルビジネス	第4章 最終打合せ(第3回目)~結婚式・披露宴当日まで
第1章 ブライダルビジネス	Lesson6 コンセプトシートに基づいた各アイテムの選定
第2章 ブライダルマーケット	第1章 コーディネート(ブライダルにおける空間のデザイン)
第3章 ブライダル業種	第2章 衣装選定
第4章 ブライダル関連業種	第3章 ブーケ、フラワーアクセサリーの選定
第5章 ブライダルのエリア特性	第4章 ヘアメイク、ネイルアート
第6章 ブライダル業界の1年と集客システム	第5章 会場コーディネート
Lesson3 ブライダルの基礎	第6章 テーブルコーディネート
第1章 見合いと婚約	第7章 ペーパーアイテム、ウェルカムアイテム
第2章 結納・婚約式	第8章 料理・飲物(「時空間」の双方に関わるアイテム)
第3章 ブライダル準備	第9章 披露宴の基本演出(ブライダルにおける時間のデザイン)
第4章 キリスト教式	第10章 披露宴の演出プラン(ブライダルにおける時間のデザイン)
第5章 神前式	第11章 引出物・引菓子
第6章 仏前式	第12章 記録・記念アイテム
第7章 人前式	Lesson7 手配業務
第8章 シビル・ウエディング	第1章 ペーパーアイテムの手配
第9章 披露宴	第2章 衣装、ヘアメイク、着付けの手配
第10章 海外ウエディングと新婚旅行	第3章 挙式・披露宴の演出手配
第11章 二次会	第4章 引出物・引菓子の手配
Lesson4 コーディネーター業務(新規~成約まで)	第5章 記録アイテムの手配
第1章 コーディネーター業務とは	第6章 装花の手配
第2章 新規業務	Lesson8 当日業務
第3章 ブライダルセールスの特徴	第1章 結婚式・披露宴当日のコーディネーターの役割
第4章 ホスピタリティ営業	第2章 挙式・披露宴進行表
第5章 プランニング	第3章 当日のアテンド(介添え)業務
第6章 プレゼンテーションの手法	第4章 テーブルセッティング
第7章 新規アフターフォロー	第5章 当日のサービス業務
第8章 成約業務	第6章 花の管理と出回り時期
第9章 ペーパーワーク	

資料出所：日本ブライダル文化振興協会編(2011)『アシスタント・ブライダル・コーディネーター ABC 検定テキスト』。

3. IBC (Introduction for Bridal Coordinator) 検定

ブライダル事業を営む企業の中には、専門学校事業に携わっていないものの、自社の社員教育で実施している研修などを、一般向けに開講しているという企業がある。IBC 検定はそうした研修で学んだ人向けに、修了試験としての意味合いをもつものとして、2004 年から実施している。試験問題のレベルや、マークシートの試験形式は ABC 検定と同様で、協会内

では「一般社会人向けのABC検定」という位置づけをしている。他の業種で仕事をしている人に、ブライダル業務について全般的に知ってもらうための試験という意味合いもある。

受験要件は、3年以上ブライダル関連の講義を受講していることであるが、協会ではあまり厳しくは考えておらず、受講歴2年程度の人でも多数受験している。これまでの累計受験者数は約1,700人、累計合格者数は約1,400人である（図表14-7）。

図表14-7 IBC検定の受験者・合格者数

実施年	受験者数	合格者数	合格率(%)
2004年	46	45	97.8
2005年	61	59	96.7
2006年	63	62	98.4
2007年	99	89	89.9
2008年	177	173	97.7
2009年	173	149	86.1
2010年	174	155	89.1
2011年	116	95	81.9
2012年	203	134	66.0
2013年	174	160	92.0
2014年	208	149	71.6
2015年	224	132	58.9

資料出所：日本ブライダル文化振興協会第5回総会(2016年6月)資料。

4. MBC (Master of Bridal Coordinator)

ブライダル関連のスキルや知識のレベルを問う検定・資格・コンテストとしては、最高級に位置づけられる。毎年120人ほどが受験しており、筆記試験300問と小論文(1,000~1,200字)試験の評価が上位10位までに入った受験者が、最終試験の対象となる。なお、試験問題は日本ブライダル大賞実行委員会が作成する。

最終試験は、経済産業省後援の「Master of Bridal Coordinator コンテスト」として、公開で行われる。試験内容は接客ロールプレイング試験であり、受験者はプロの俳優が演じる顧客を相手に、決められた時間(2015年の試験では受験者1人あたり10分)・状況設定の下、接客の模擬演技を行う。この模擬演技の内容を20人の審査員が採点し、受験者10人の順位がつけられ、大賞が決定される。

第3節 資格・検定の普及・改善に向けた取り組みと今後の課題

現在のブライダル・コーディネーター養成講座は、今後も企業の中核となる人材を対象に、知識やスキルの向上を目指して実施していきたいと協会は考えている。

協会で普及させたいと考えているのは、2015年から厚生労働省が所管する「業界検定スタートアップ事業」において、試行的に取り組んでいる業界検定である。これまで協会で実施

してきた各種検定を、新たな業界検定制度に再編し、問題の作成や試験実施・評価体制の整備を進めている。

新たな検定の名称は「ブライダル・コーディネーター」とし、1～3級のレベルを設ける計画である。1級取得者の人材像としては、①新規提案するものも組み合わせて顧客にあったブライダルのコーディネーションができる、②ブライダル・コーディネーターとして必要な知識・技能・実践力を体系的に理解した上で、他のブライダル・コーディネーターの指導や育成を実施できる、③組織単位のマネジメントを担える、といったレベルを想定している。2級は業界で一人前とみなされるレベルを想定しており、具体的には①既存のサービス・商品等を組み合わせて顧客にあったブライダルのコーディネーションができる、②ブライダル・コーディネーターとして必要な知識・技能・実践力を身につけており、それらを実際の業務で活用できる、といった人材である。3級の能力レベルは現在のABC検定取得者のレベルと同等のものとして考えており、①顧客のニーズの聞き取り、既存のサービス・商品等を組み合わせたブライダルの提案ができ、②ブライダル・コーディネーターとして必要な知識・技能・実践力を体系的に理解している、といったレベルを想定している。各レベルの認定は、それぞれのレベルに対応した学科試験・実技試験を通じて行う予定である。